

電子デバイス工学

07

バイポーラトランジスタ

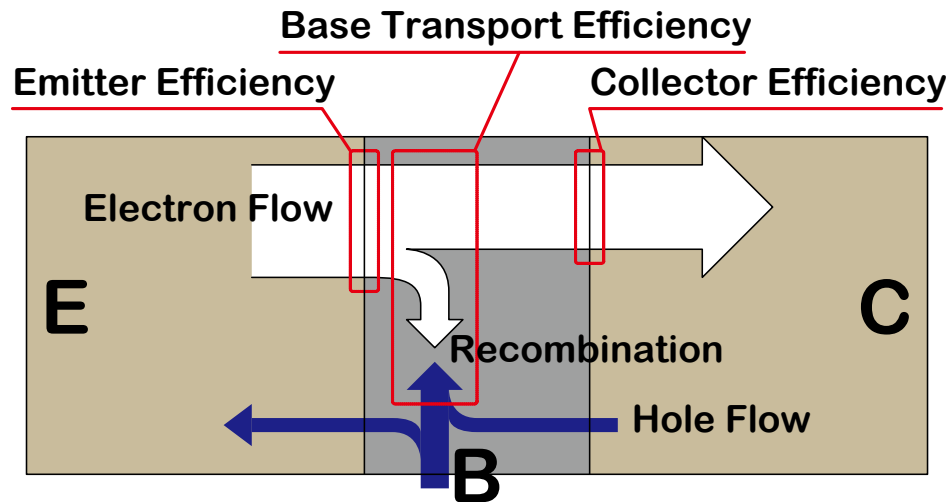
(2) 静特性と動特性

トランジスタの性能指標

エミッタ効率 γ_F
ベース輸送効率 α_T

エミッタ効率： 「なるべく正孔電流は流れて欲しくない」 の程度

ベース輸送効率： 「なるべくベース内で再結合して欲しくない」 の程度



こうした指標が、エミッタ、ベース、コレクタを構成する半導体の物性や構造とどのような関係にあるかを数式で明確化する。

➔ どんな素材を使うか、どんな構造にするか、の指針が得られる。

トランジスタの設計指針

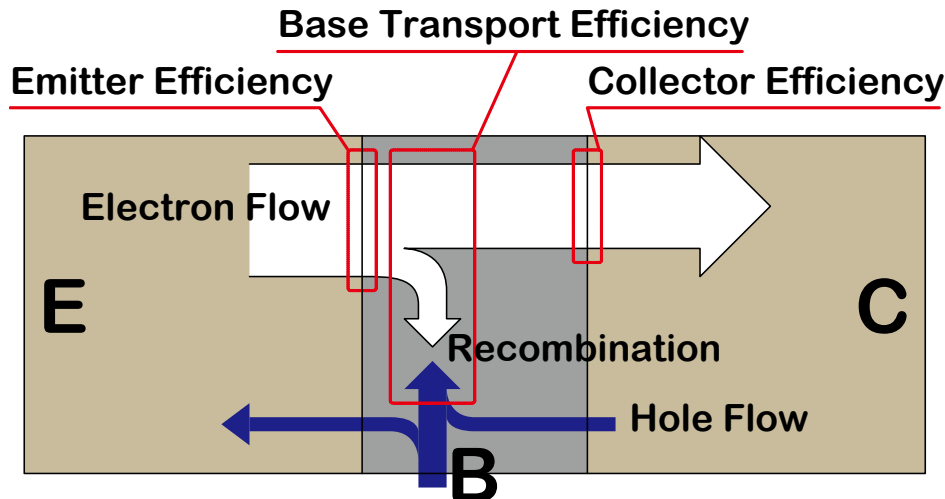
エミッタ効率 γ_F
ベース輸送効率 α_T

エミッタ効率に関する指針

ベース不純物は少なく（アクセプタを少なく）
エミッタ不純物は多く（ドナーを多く）

ベース輸送効率に関する指針

ベース厚みはなるべく薄く
ベース中の電子の拡散長がなるべく長くなるように



本日の講義目的：
この結論に至る道筋を
数式を使ってたどる

式がいっぱいなので、
まずは結論から....

数式によるトランジスタ動作解釈 のための準備

まずは、pn接合における少数キャリアの振るまい
を理解しておく必要がある。

注入

1. 空乏層端からの少数キャリアの注入

バイアス V が印加されたとき、空乏層から注入される
少数キャリアの密度は、熱平衡の時と比べてどれくらいか？

輸送

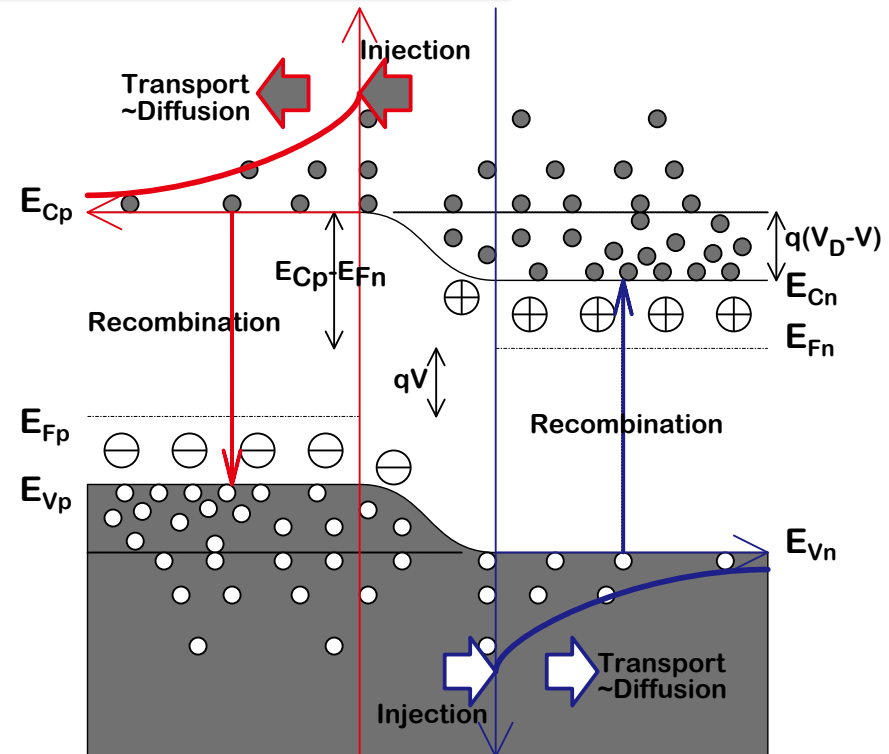
2. 半導体中を流れるキャリアの輸送（ドリフト+拡散）

電界が印加されている空乏層から出たキャリアは、
電界がほとんど無いバルク部分でどのように輸送されるか

消滅

3. 半導体中のキャリアの再結合（寿命，拡散長）

輸送されている最中に少数キャリアはどれくらいの
割合で再結合して無くなっていくか？



これら三つが、デバイス動作特性を決めている主要なプロセス

pn接合の数式による復習

少数キャリアの注入

小数キャリアの注入 (1 / 2)

$$n_p(0) = n_{n0} \exp\left(-\frac{q(V_D - V)}{kT}\right)$$

実効状態密度を用いたn形側の熱平衡状態の電子密度（第03回参照）

$$n_{n0} = N_C \exp\left(-\frac{E_{Cn} - E_{Fn}}{kT}\right)$$

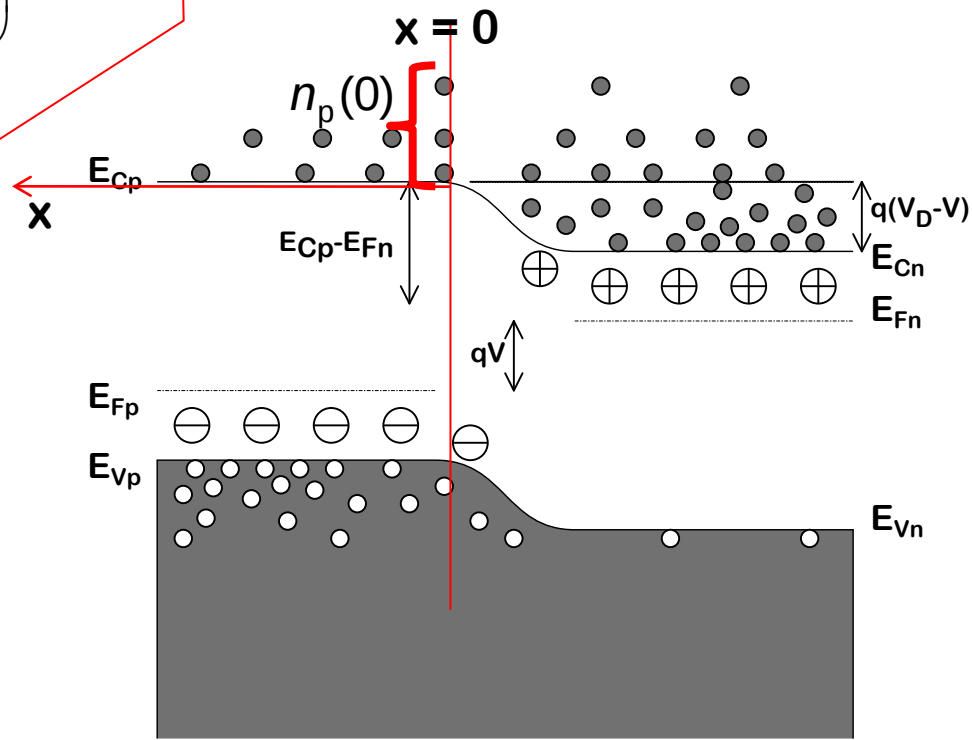
$$n_p(0) = N_C \exp\left(-\frac{E_{Cn} - E_{Fn}}{kT}\right) \exp\left(-\frac{q(V_D - V)}{kT}\right)$$

バンド図からわかるエネルギー準位の関係

$$q(V_D - V) = E_{Cp} - E_{Cn}$$

$$qV = E_{\text{Fn}} - E_{\text{Fp}}$$

$$n_p(0) = N_c \exp\left(-\frac{E_{Cn} - (qV - E_{Fp})}{kT}\right) \\ \times \exp\left(-\frac{E_{Cp} - E_{Cn}}{kT}\right)$$



小数キャリアの注入 (2/2)

$$\begin{aligned}
 n_p(0) &= N_C \exp\left(-\frac{E_{Cn} - (qV - E_{Fp}) + (E_{Cp} - E_{Cn})}{kT}\right) \\
 &= N_C \exp\left(-\frac{E_{Cp} - E_{Fp}}{kT}\right) \exp\left(\frac{qV}{kT}\right) \\
 &= n_{p0} \exp\left(\frac{qV}{kT}\right)
 \end{aligned}$$

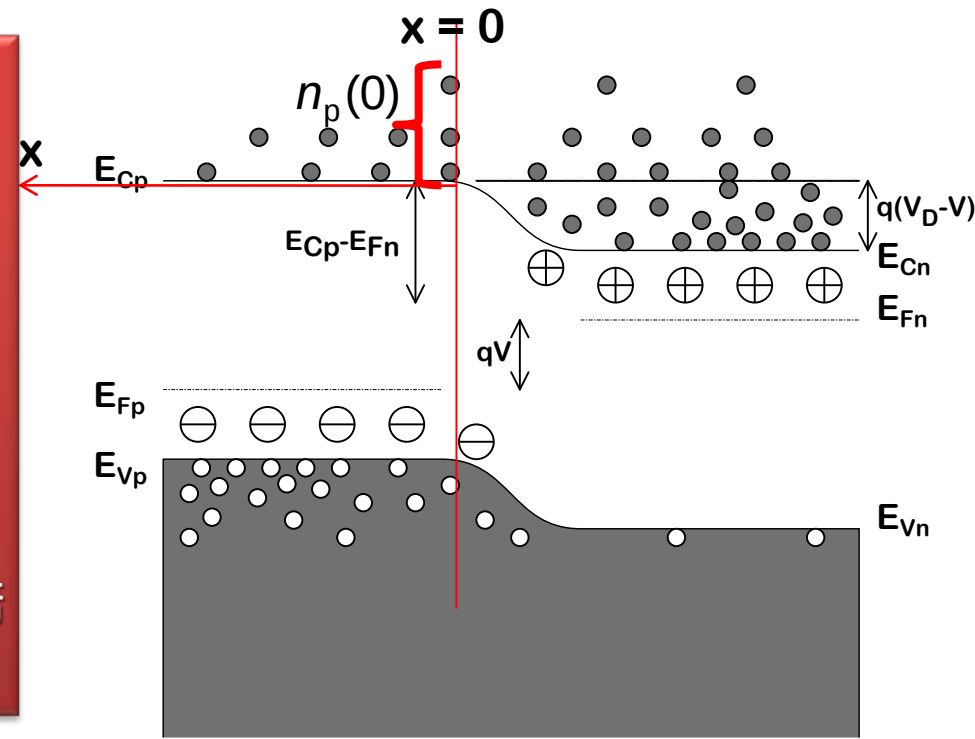
実効状態密度を用いたp形側の熱平衡状態の電子密度 (第03回参照)

$$n_{p0} = N_C \exp\left(-\frac{E_{Cp} - E_{Fp}}{kT}\right)$$

pn接合にVなるバイアス電圧が印加されると、p形側へは、空乏層端から以下の少数キャリアが注入される。

$$n_p(0) = n_{p0} \exp\left(\frac{qV}{kT}\right)$$

p形側の熱平衡状態の密度の $\exp(qV/kT)$ 倍のキャリアが注入される。



pn接合の数式による復習

少数キャリアの輸送

ドリフト

移動度 μ

ドリフト：駆動力＝電界

$$v_e = -\mu_e E$$

速度

$$v_h = +\mu_h E$$

$$\Phi_e = n v_e = -n \mu_e E$$

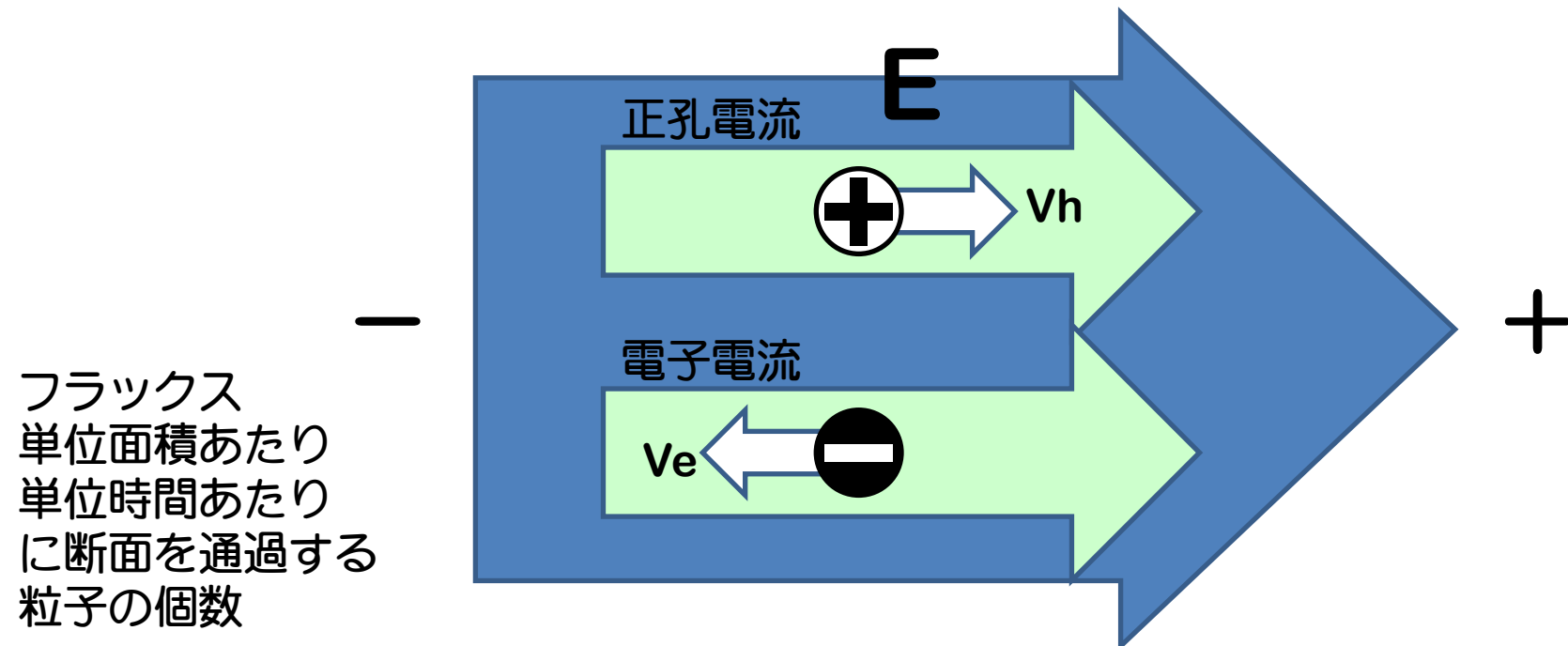
フラックス

$$\Phi_h = p v_h = p \mu_h E$$

$$J_e = -q \Phi_e = q n \mu_e E$$

電流

$$J_h = q \Phi_h = q p \mu_h E$$



拡散

拡散係数 D

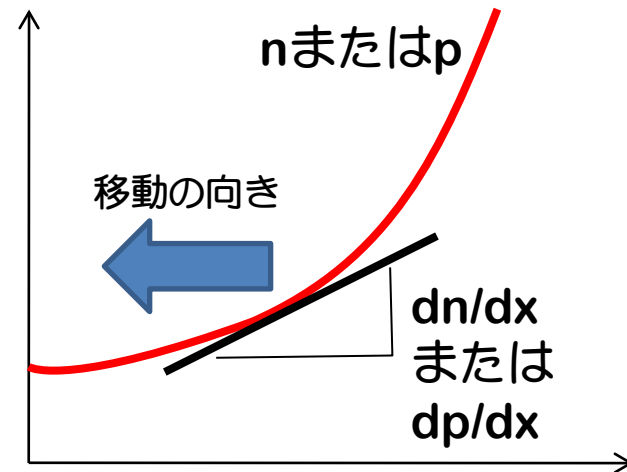
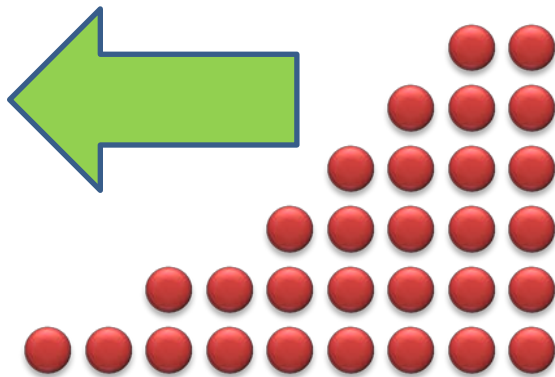
拡散：駆動力＝密度勾配

$$\Phi_e = -D_e \frac{\partial n}{\partial x}$$

$$J_e = -q\Phi_e = qD_e \frac{\partial n}{\partial x}$$

$$\Phi_h = -D_h \frac{\partial p}{\partial x}$$

$$J_h = q\Phi_h = -qD_h \frac{\partial p}{\partial x}$$



電流

$$\text{電流} = (\text{電荷量}) \times (\text{電荷の流れ})$$

電荷の流れ

ドリフト

拡散

$$\Phi_e = -n\mu_e E - D_e \frac{\partial n}{\partial x}$$

ドリフト

拡散

$$\Phi_h = p\mu_h E - D_h \frac{\partial p}{\partial x}$$

電流

$x(-q)$ 電子の電荷 = $-q$

$x(+q)$ 正孔の電荷 = $+q$

$$J_e = qn\mu_e E + qD_e \frac{\partial n}{\partial x}$$

$$J_h = qp\mu_h E - qD_h \frac{\partial p}{\partial x}$$

電界の無いとき

$$J_e = qD_e \frac{\partial n}{\partial x}$$

$$J_h = -qD_h \frac{\partial p}{\partial x}$$

pn接合の数式による復習

少数キャリアの消滅

再結合

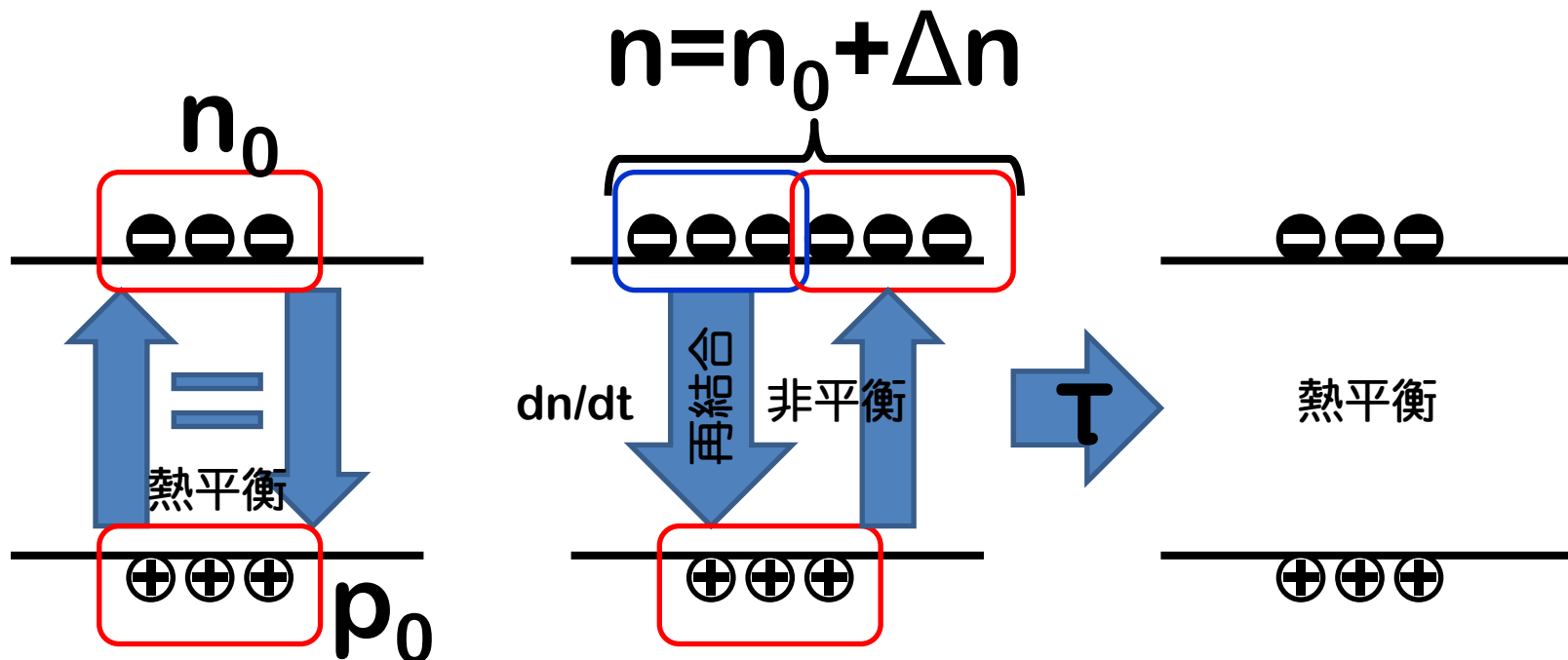
寿命 τ

$$\frac{\partial n}{\partial t} = -\frac{n - n_0}{\tau_e}$$

$$\frac{\partial p}{\partial t} = -\frac{p - p_0}{\tau_h}$$

n_0, p_0 熱平衡状態の電子・正孔の密度

n, p 注入などで熱平衡からずれたときの電子・正孔の密度



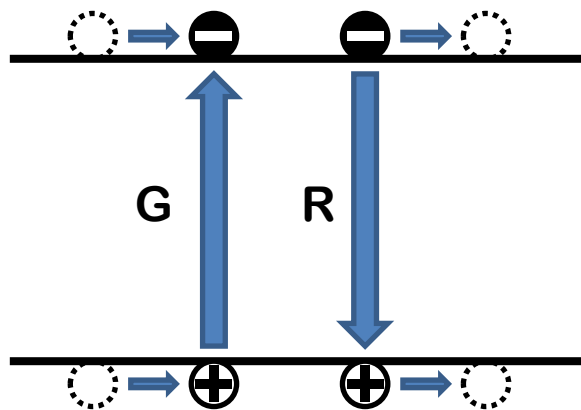
再結合（詳細説明1 / 3）

生成と再結合による物質の密度変化の基本式は,

$$\frac{\partial n}{\partial t} = G - R = G - \gamma p n$$

$$n = n_0 + \Delta n \quad p = p_0 + \Delta p \quad \text{と書くことにすると,}$$

$$\begin{aligned} \frac{\partial n}{\partial t} &= G - \gamma (p_0 + \Delta p)(n_0 + \Delta n) \\ &= G - \gamma (p_0 n_0 + p_0 \Delta n + n_0 \Delta p + \Delta p \Delta n) \end{aligned}$$



生成(G: Generation)

$$G = \text{const.}$$

駆動力 = 外部からの励起
(温度や光)

再結合(R: Recombination) 駆動力 = 再結合相手の密度

$$R \propto p n$$

再結合（詳細説明2／3）

熱平衡からのずれがあまり大きくない p 形半導体中の小数キャリアの場合

「p 形半導体中」ということ $\rightarrow n_0 \ll p_0$

「熱平衡からずれてない」ということ $\rightarrow \Delta p, \Delta n \ll n_0, p_0$

$$p_0 n_0 + p_0 \Delta n + \cancel{n_0 \Delta p} + \cancel{\Delta p \Delta n} \approx p_0 n_0 + p_0 \Delta n$$

よって,

$$\frac{\partial n}{\partial t} = \boxed{G - \gamma p_0 n_0} - \gamma p_0 \Delta n$$

熱平衡状態の n_0, p_0 に関しては, $\frac{\partial n_0}{\partial t} = G - R = \boxed{G - \gamma p_0 n_0 = 0}$ であるから,

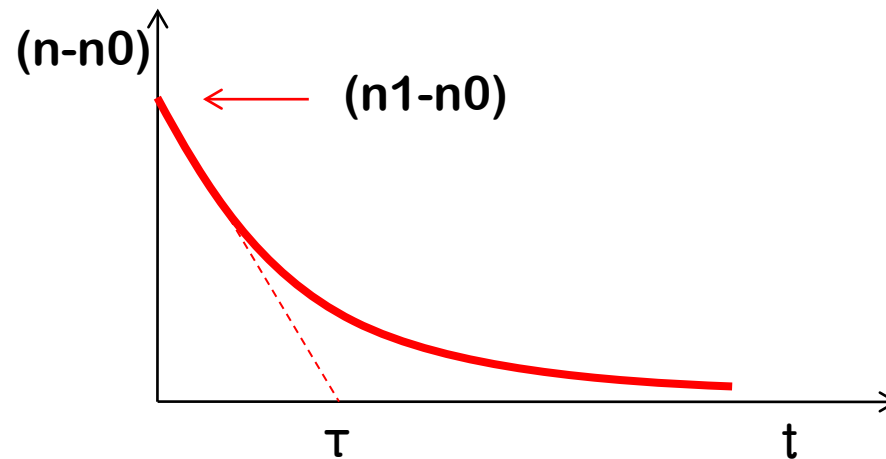
$$\frac{\partial n}{\partial t} = -\gamma p_0 \Delta n = -\frac{\Delta n}{\tau_e} = -\frac{n - n_0}{\tau_e} \quad \tau_e \equiv \frac{1}{\gamma p_0}$$

再結合 (詳細説明 3 / 3)

$$\frac{\partial n}{\partial t} = -\frac{n - n_0}{\tau_e}$$



$$(n - n_0) = (n_1 - n_0) \exp\left(-\frac{t}{\tau_e}\right)$$



pn接合の数式による復習

少数キャリア連続の式

少数キャリアの空乏層の外での密度分布
少数キャリアの空乏層の外での電流

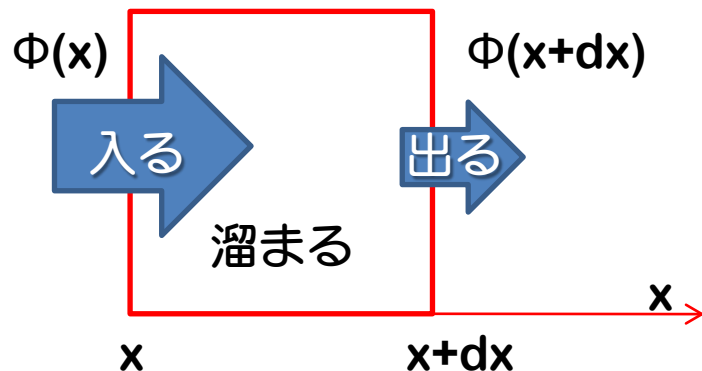
少数キャリア連続の式 (1 / 2)

$$\frac{\partial n}{\partial t} = -\frac{n - n_0}{\tau_e} - \frac{\partial \Phi_e}{\partial x}$$

$$\frac{\partial p}{\partial t} = -\frac{p - p_0}{\tau_h} - \frac{\partial \Phi_h}{\partial x}$$

(単位時間当たりの増量) =
(単位時間当たりに流れ込んだ数) - (単位時間当たりに流れ出た数)

$$dn/dt = - \{ \Phi(x+dx) - \Phi(x) \} / dx = - d\Phi/dx$$



マイナス符号を忘れずに

dn/dt が正 (増える) 場合は,
 $\Phi(x+dx) < \Phi(x)$ のハズですよ.

少数キャリア連続の式 (2/2)

フラックス表示

$$\frac{\partial n}{\partial t} = -\frac{n - n_0}{\tau_e} - \frac{\partial \Phi_e}{\partial x}$$

$$\frac{\partial p}{\partial t} = -\frac{p - p_0}{\tau_h} - \frac{\partial \Phi_h}{\partial x}$$

電流密度表示 (+ - の符号の変化に注意)

$$\frac{\partial n}{\partial t} = -\frac{n - n_0}{\tau_e} + \frac{1}{q} \frac{\partial J_e}{\partial x}$$

$$\frac{\partial p}{\partial t} = -\frac{p - p_0}{\tau_h} - \frac{1}{q} \frac{\partial J_h}{\partial x}$$

全部書き下すと,

$$\frac{\partial n}{\partial t} = -\frac{n - n_0}{\tau_e} + \frac{\partial}{\partial x} \left(n \mu_e E + D_e \frac{\partial n}{\partial x} \right)$$

$$\frac{\partial p}{\partial t} = -\frac{p - p_0}{\tau_h} - \frac{\partial}{\partial x} \left(p \mu_h E - D_h \frac{\partial p}{\partial x} \right)$$

pn接合の空乏層の外における 少数キャリア連続の式 (1 / 2)

$$\frac{\partial n_p}{\partial t} = -\frac{n_p - n_{p0}}{\tau_e} + \frac{\partial}{\partial x} \left(n_p \mu_e E + D_e \frac{\partial n_p}{\partial x} \right)$$

空乏層外では電界がゼロ ($E=0$) . 定常状態では密度変化無し ($dn/dt = 0$) .
よって,

$$D_e \frac{\partial^2 n_p}{\partial x^2} - \frac{n_p - n_{p0}}{\tau_e} = 0$$

$$\frac{\partial^2}{\partial x^2} n_p - \frac{1}{\tau_e D_e} n_p + \frac{n_{p0}}{\tau_e D_e} = 0$$

二階線形微分方程式

$$\frac{\partial^2}{\partial x^2} n_p - \frac{1}{L_e^2} n_p + \frac{n_{p0}}{L_e^2} = 0$$

$$\sqrt{\tau_e D_e} = L_e \quad \text{拡散長}$$

要するにこれを解けば, キャリアの密度分布が出る

pn接合の数式による復習

少数キャリアの 密度分布

p形半導体中の少数キャリア（電子） の密度分布（1 / 2）

$$n_p = A \exp\left(\frac{x}{L_e}\right) + B \exp\left(-\frac{x}{L_e}\right) + n_{p0}$$

$x = \infty$ にて $n_p = n_{p0}$ であるから（別の言い方：p形側で注入の影響のない遠方では、少数キャリア（電子）の密度は、熱平衡状態のそれ（ n_{p0} ）になるから）

$$A = 0$$

よって、

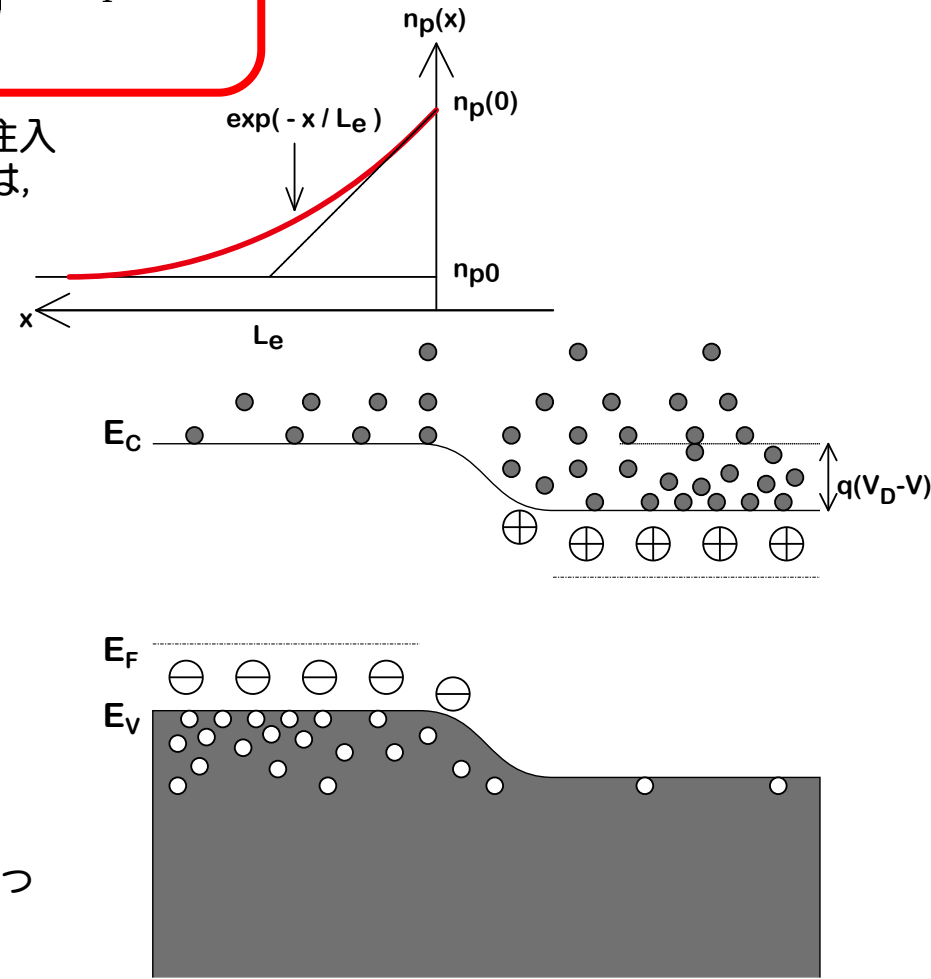
$$n_p = B \exp\left(-\frac{x}{L_e}\right) + n_{p0}$$

解釈

注入口から遠くなるに従って指数関数的に減少する。
注入された密度の $1/e$ （+ n_{p0} があるので「おおよそ」）
になる距離が L_e 。

十分遠方では、熱平衡状態の少数キャリア密度 n_{p0} になっている

先ほどの二階線形微分方程式の解



p形半導体中の少数キャリア（電子） の密度分布（2／2）

$x = 0$ にて注入される電子の密度は, (少数キャリアの注入の項参照)

$$n_p(0) = n_{p0} \exp\left(\frac{qV}{kT}\right) \quad \times$$

$$n_p(0) = B + n_{p0} \quad \Rightarrow \quad B = n_p(0) - n_{p0} = n_{p0} \left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right)$$

よって,

$$n_p = n_{p0} \left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right) \exp\left(-\frac{x}{L_e}\right) + n_{p0}$$

p形の中の電子の場合

n形の中の正孔の場合も同様



$$n_p(0) = n_{n0} \exp\left(-\frac{q(V_D - V)}{kT}\right)$$

と書くこともできるが, この場合, n形半導体の情報 (n_{n0}) が別途必要となってしまうので, 全て p形半導体の情報だけで完結させるために上記の $n_p(0)$ の標記を採用した.

p形半導体中の電子密度分布 n形半導体中の正孔密度分布

$$n_p = n_{p0} \left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right) \exp\left(-\frac{x}{L_e}\right) + n_{p0}$$

$$p_n = p_{n0} \left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right) \exp\left(-\frac{x}{L_h}\right) + p_{n0}$$

順バイアス



$$\left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right) \approx \exp\left(\frac{qV}{kT}\right)$$

$$n_p = n_{p0} \exp\left(\frac{qV}{kT}\right) \exp\left(-\frac{x}{L_e}\right) + n_{p0}$$

$$p_n = p_{n0} \exp\left(\frac{qV}{kT}\right) \exp\left(-\frac{x}{L_h}\right) + p_{n0}$$

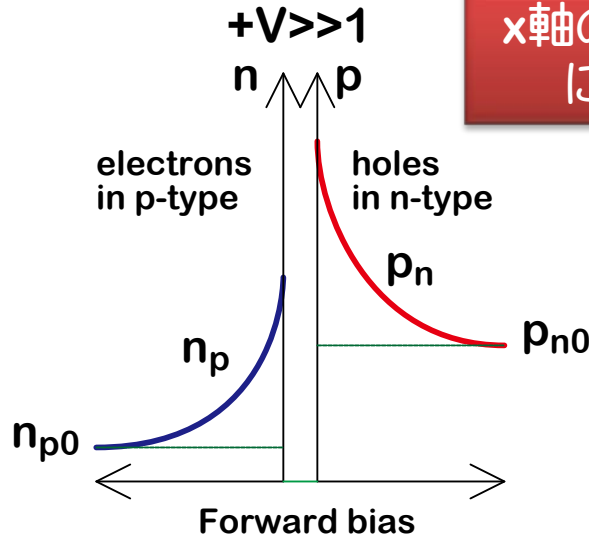
逆バイアス



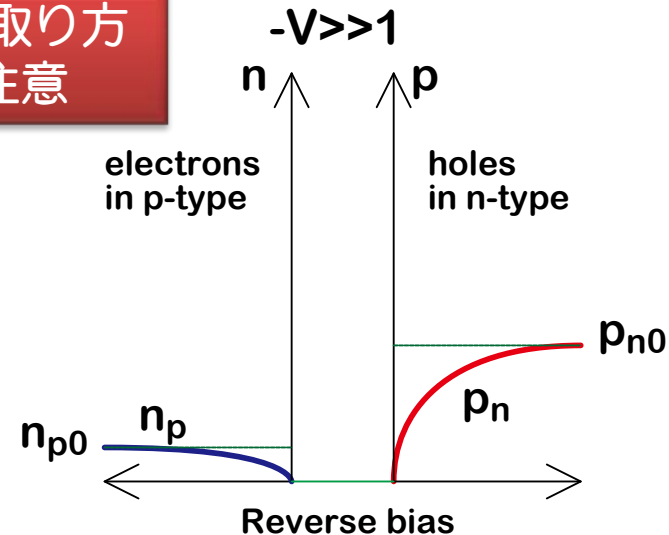
$$\left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right) \approx -1$$

$$n_p = n_{p0} \left(1 - \exp\left(-\frac{x}{L_e}\right) \right)$$

$$p_n = p_{n0} \left(1 - \exp\left(-\frac{x}{L_h}\right) \right)$$



x軸の取り方に注意



pn接合の数式による復習

少数キャリアによる 電流分布

p形半導体中の少数キャリア（電子）による電流

電流を表す式

$$J_e = qD_e \frac{\partial n}{\partial x}$$

空乏層外なので $E=0$

電界(E)が無いので、
拡散電流のみ

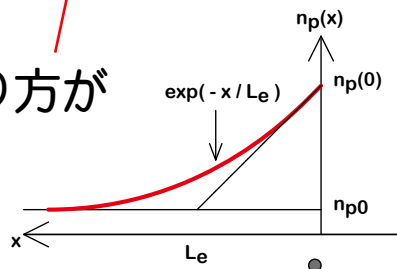
$$J_e = \cancel{qn\mu_e E} + qD_e \frac{\partial n}{\partial x}$$

少数キャリアの
密度分布

$$n_p = n_{p0} \left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right) \exp\left(-\frac{x}{L_e}\right) + n_{p0}$$

$$J_e = - \frac{qD_e n_{p0}}{L_e} \left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right) \exp\left(-\frac{x}{L_e}\right)$$

x 軸の取り方が



となっている。

左向きが正だから、負号
は右向きを意味する

p形半導体中の多数キャリア（正孔）による電流

p形半導体中の電子電流

$$J_e = -\frac{qD_e n_{p0}}{L_e} \left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right) \exp\left(-\frac{x}{L_e}\right)$$

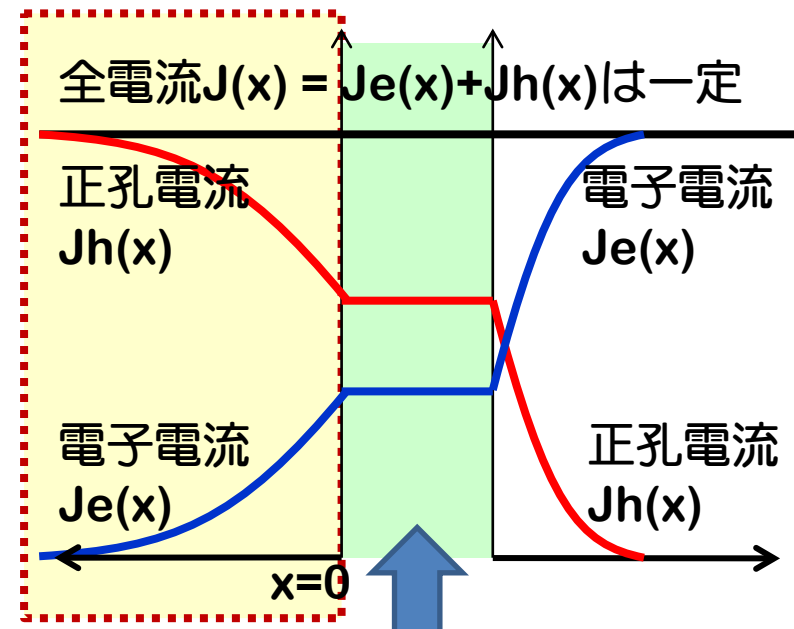
上記の電子電流の担い手である電子が再結合すると，それを補うための正孔が補給される→正孔の流れとなる→正孔電流

「電流連続」の法則により，半導体中のどの断面をとっても，全電流は同じ．

「 $x=0$ 」のときの $J=J_e+J_h$ と同じ電流が「 x =任意」において流れる．

Jから J_e を引いてやれば，正孔電流となる．

n形半導体中では，少数キャリアが正孔，多数キャリアが電子になる以外は，同様．



空乏層内は再結合無し
電子・正孔の増減無し
電流の増減無し

空乏層を通過する電子電流と正孔電流

電子電流 (p→n (右向き) の電流を正とする)

空乏層の左端 (p 形側) : 電子が注入されている

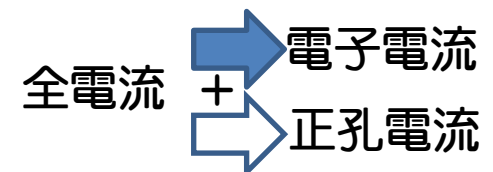
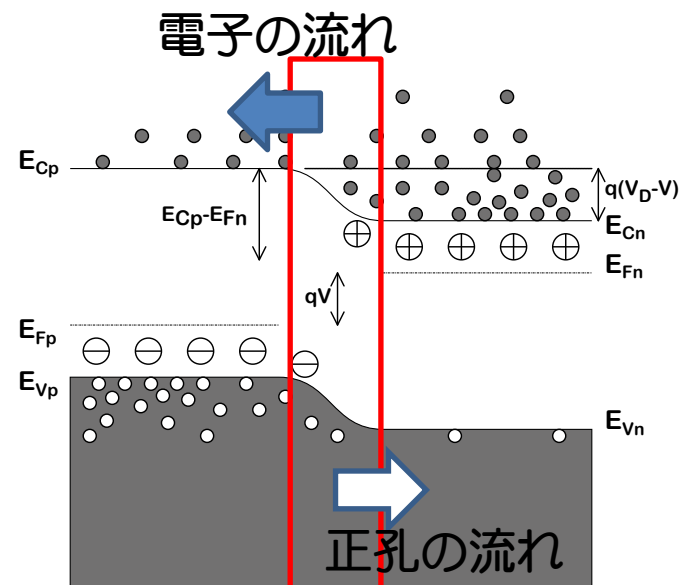
$$J_e(0) = \frac{qD_en_{p0}}{L_e} \left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right)$$

空乏層の右端 (n 形側) : 正孔が注入されている

(電子の場合と全く同じ論理なので、導出は省略)

$$J_h(0) = \frac{qD_hp_{n0}}{L_h} \left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right)$$

$$J_e(x) = \frac{qD_en_{p0}}{L_e} \left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right) \exp\left(-\frac{x}{L_e}\right)$$



空乏層を通過する全電流

$$J_e = \frac{qD_en_{p0}}{L_e} \left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right)$$

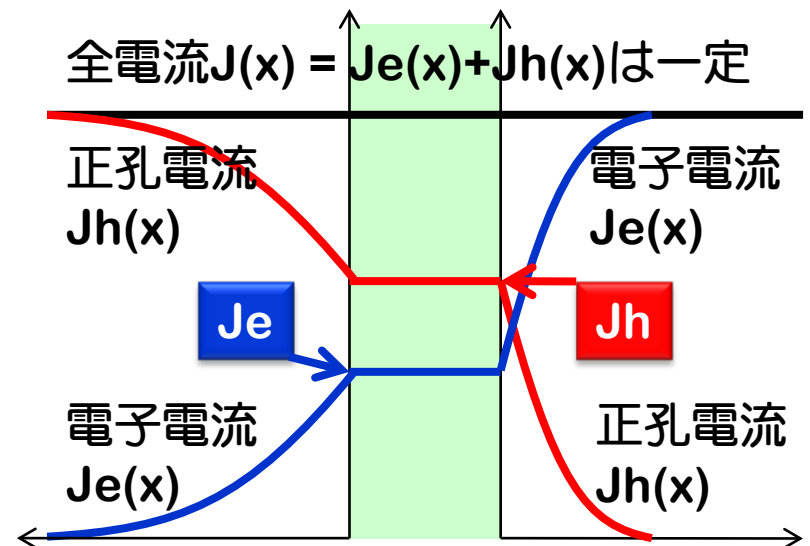
$$J_h = \frac{qD_hp_{n0}}{L_h} \left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right)$$

$$J = J_e + J_h = \left(\frac{qD_en_{p0}}{L_e} + \frac{qD_hp_{n0}}{L_h} \right) \left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right)$$

$$J_0 = \frac{qD_en_{p0}}{L_e} + \frac{qD_hp_{n0}}{L_h}$$



$$J = J_0 \left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right)$$



順方向バイアスのときの 電子電流と正孔電流

$$J_e = \frac{qD_e n_{p0}}{L_e} \left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right) \exp\left(-\frac{x}{L_e}\right)$$

$$J_h = \frac{qD_h p_{n0}}{L_h} \left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right) \exp\left(-\frac{x}{L_h}\right)$$

順バイアス



$$\left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right) \approx \exp\left(\frac{qV}{kT}\right)$$

p形半導体中

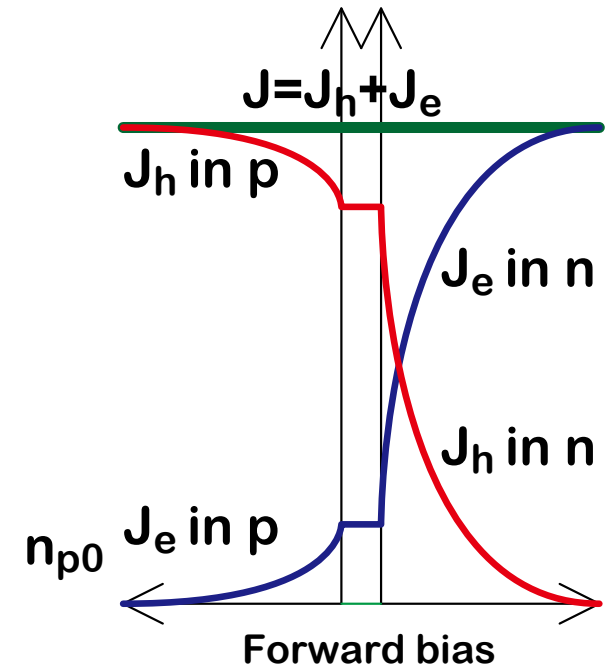
$$J_e = \frac{qD_e n_{p0}}{L_e} \exp\left(\frac{qV}{kT}\right) \exp\left(-\frac{x}{L_e}\right)$$

$$J_h = J - J_e$$

n形半導体中

$$J_h = \frac{qD_h p_{n0}}{L_h} \exp\left(\frac{qV}{kT}\right) \exp\left(-\frac{x}{L_h}\right)$$

$$J_e = J - J_h$$



x軸の向きに注意！

電流の向きは、どちらも右向きを正とする

逆方向バイアスのときの 電子電流と正孔電流

$$J_e = \frac{qD_en_{p0}}{L_e} \left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right) \exp\left(-\frac{x}{L_e}\right)$$

$$J_h = \frac{qD_hp_{n0}}{L_h} \left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right) \exp\left(-\frac{x}{L_h}\right)$$

逆バイアス

$$\left(\exp\left(\frac{qV}{kT}\right) - 1 \right) \approx -1$$

p形半導体中

$$J_e = -\frac{qD_en_{p0}}{L_e} \exp\left(-\frac{x}{L_e}\right)$$

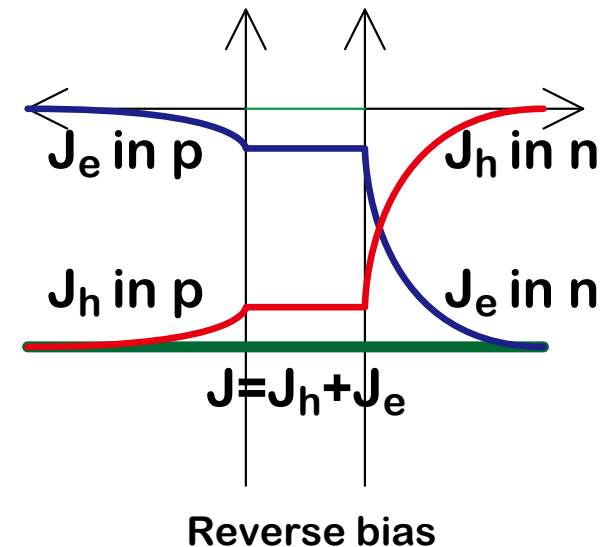
$$J_h = J - J_e$$

n形半導体中

$$J_h = -\frac{qD_hp_{n0}}{L_h} \exp\left(-\frac{x}{L_h}\right)$$

$$J_e = J - J_h$$

右向きを正
として「負」
だから、
このときは
電流は
左向きに
流れる



x軸の向きに注意！

電流の向きは、どちらも右向きを正とする

J₀を不純物濃度で表す

$$J_0 = \frac{qD_e n_{p0}}{L_e} + \frac{qD_h p_{n0}}{L_h}$$

n_{p0}

熱平衡状態時のp形中の電子の密度

= n形中で E_c よりも V_D だけ上にいる電子の密度

$$\Rightarrow n_{p0} = n_{n0} \exp\left(-\frac{qV_D}{kT}\right)$$

p_{n0}

熱平衡状態時のn形中の正孔の密度

= p形中で E_v よりも V_D だけ下にいる正孔の密度

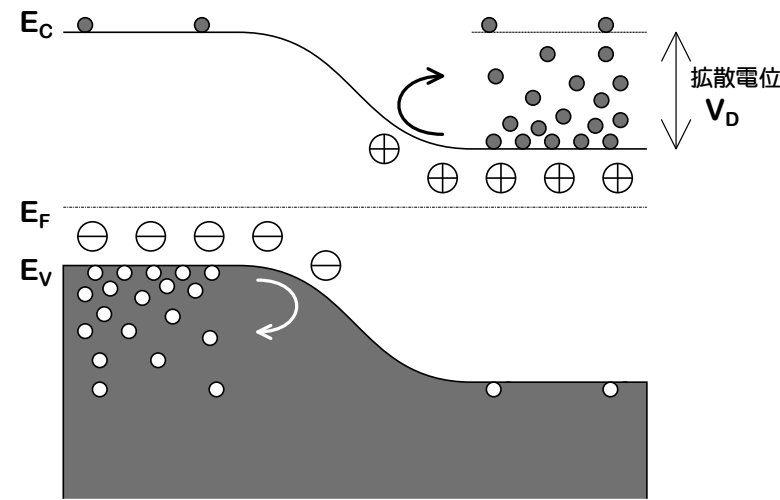
$$\Rightarrow p_{n0} = p_{p0} \exp\left(-\frac{qV_D}{kT}\right)$$

$$J_0 = \left(\frac{qD_e n_{n0}}{L_e} + \frac{qD_h p_{p0}}{L_h} \right) \exp\left(-\frac{qV_D}{kT}\right)$$

$n_{n0} \approx N_D$ $p_{p0} \approx N_A$ であるから,

普通の温度であれば, 多数キャリア密度は不純物密度に等しい

$$J_0 = \left(\frac{qD_e N_D}{L_e} + \frac{qD_h N_A}{L_h} \right) \exp\left(-\frac{qV_D}{kT}\right)$$



npn接合トランジスタの 数式による解析

ベースの中性領域の 少数キャリア密度分布を求める

ベースの中性領域（空乏層外）の少数キャリア（電子）が従う方程式は、

$$D_{eB} \frac{\partial^2 n_B}{\partial x^2} - \frac{n_B - n_{0B}}{\tau_{eB}} = 0$$

この一般解は、pn接合の場合と全く同じであり、

$$n_B(x) = A \exp\left(\frac{x}{L_{eB}}\right) + B \exp\left(-\frac{x}{L_{eB}}\right) + n_{0B} \quad \sqrt{\tau_{eB} D_{eB}} = L_{eB}$$

$n_B(0)$ と $n_B(W)$ が境界条件として与えられれば、

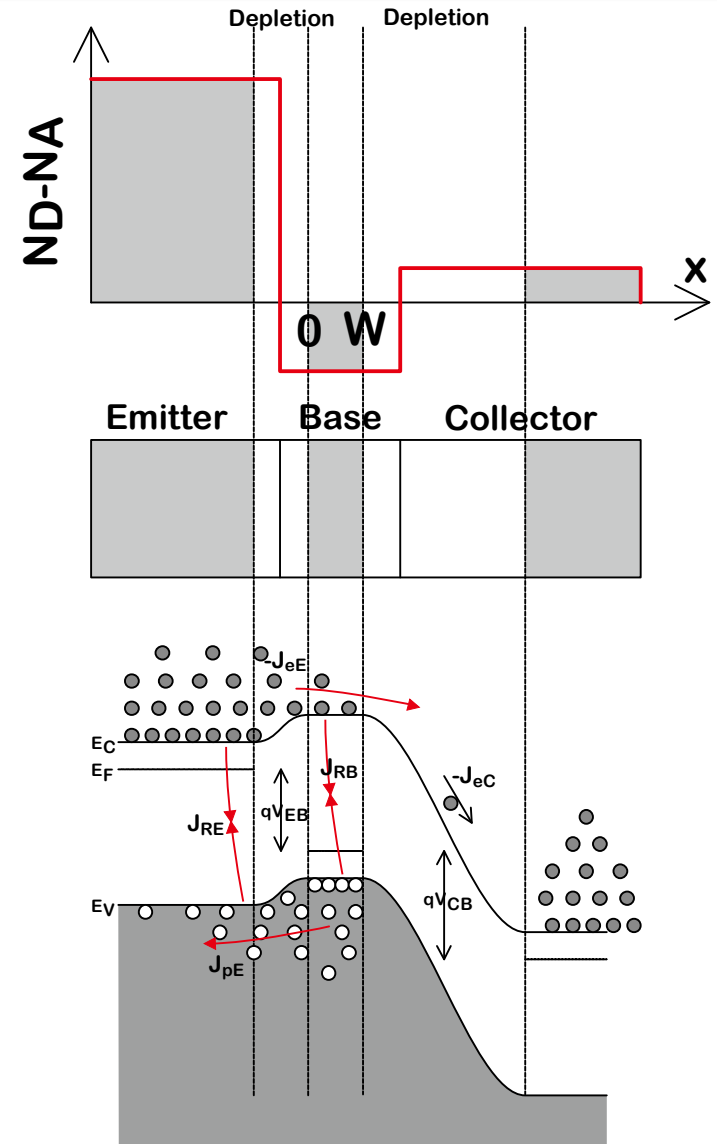
$$n_B(0) = A + B + n_{0B} \quad n_B(W) = A \exp\left(\frac{W}{L_{eB}}\right) + B \exp\left(-\frac{W}{L_{eB}}\right) + n_{0B}$$

の関係から、 A 、 B を $n_B(0)$ と $n_B(W)$ を用いて表すことができる。

$$A = \left\{ [n_B(W) - n_{0B}] - (n_B(0) - n_{0B}) \exp\left(-\frac{W}{L_{eB}}\right) \right\} / 2 \sinh\left(\frac{W}{L_{eB}}\right)$$

$$B = \left\{ (n_B(0) - n_{0B}) \exp\left(\frac{W}{L_{eB}}\right) - [n_B(W) - n_{0B}] \right\} / 2 \sinh\left(\frac{W}{L_{eB}}\right)$$

ただし、 $\sinh(x) = \frac{e^x - e^{-x}}{2}$



境界条件 $n_p(0)$ と $n_p(W)$

E B間のnp接合空乏層端, B C間のpn接合空乏層端の少数キャリア密度は,
E B, B Cに印加された電圧を用いて以下のように書ける.



$$n_B(0) = n_{0B} \exp\left(\frac{qV_{BE}}{kT}\right)$$

$$n_B(W) = n_{0B} \exp\left(\frac{qV_{BC}}{kT}\right)$$

少数キャリアの注入 (2/2)

$$\begin{aligned} n_p(0) &= N_c \exp\left(-\frac{E_{Cn} - (qV - E_{Fp}) + (E_{Cp} - E_{Cn})}{kT}\right) \\ &= N_c \exp\left(-\frac{E_{Cp} - E_{Fp}}{kT}\right) \exp\left(\frac{qV}{kT}\right) \\ &= n_{p0} \exp\left(\frac{qV}{kT}\right) \end{aligned}$$

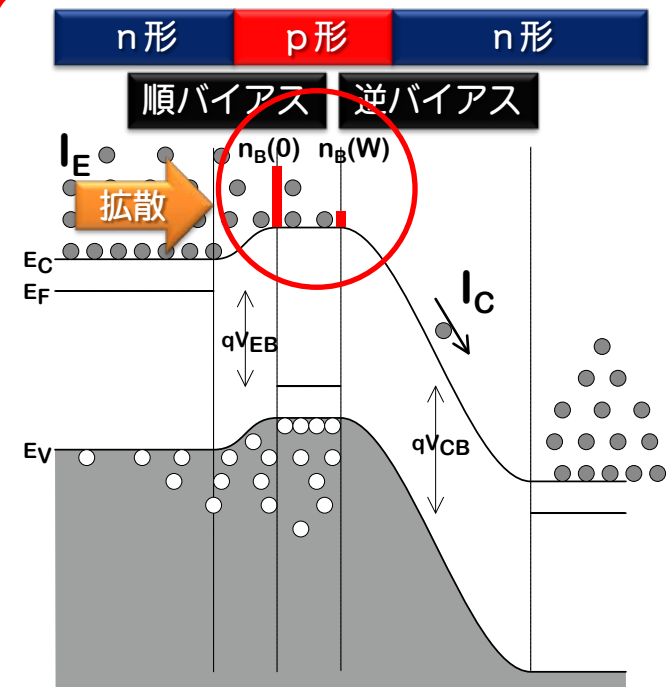
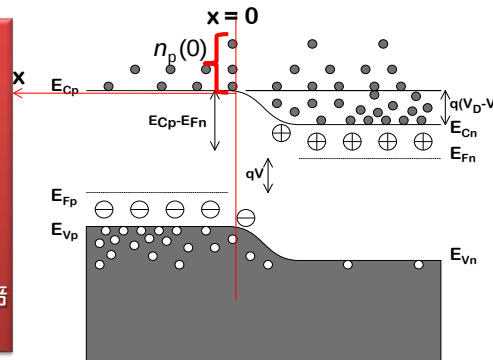
実効状態密度を用いたp形側の熱平衡状態の電子密度 (第03回参照)

$$n_{p0} = N_c \exp\left(-\frac{E_{Cp} - E_{Fp}}{kT}\right)$$

pn接合にVなるバイアス電圧が印加されると, p形側へは, 空乏層端から以下の少数キャリアが注入される.

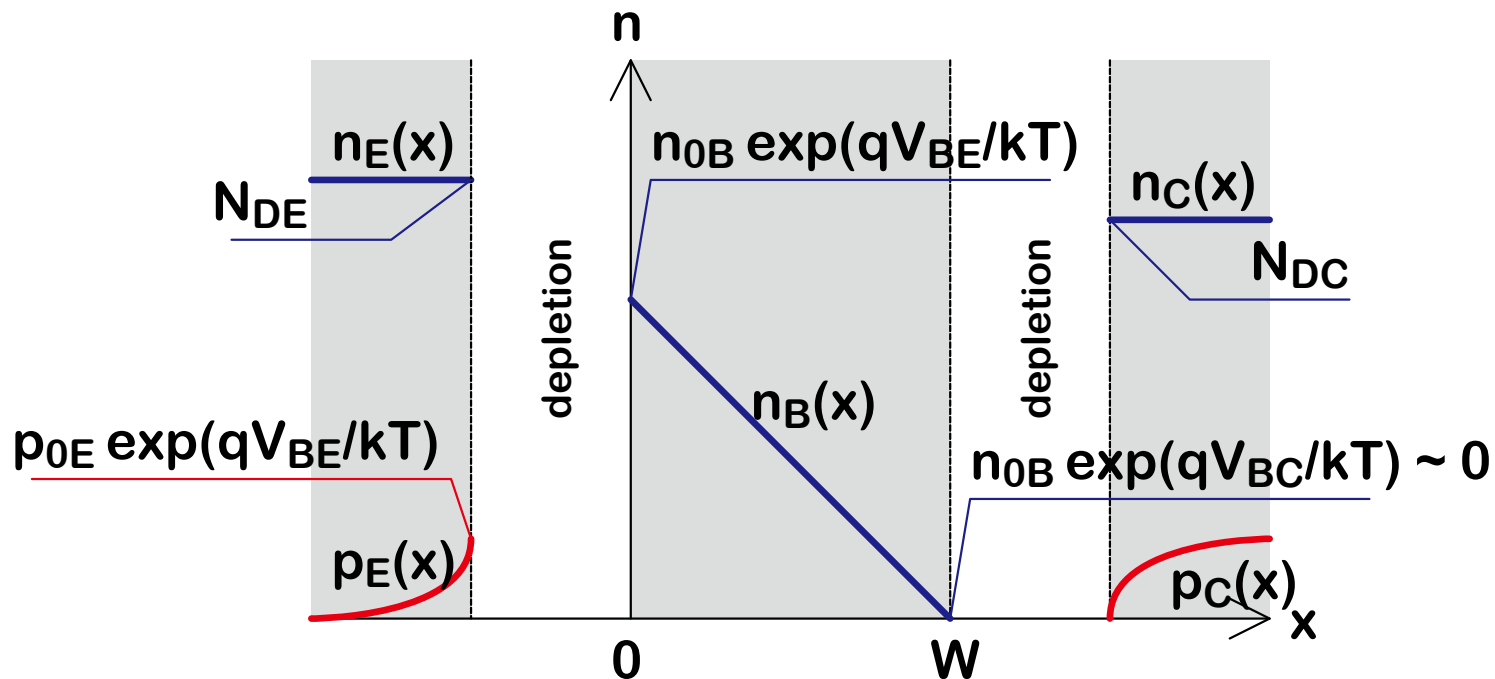
$$n_p(0) = n_{p0} \exp\left(\frac{qV}{kT}\right)$$

p形側の熱平衡状態の密度の $\exp(qV/kT)$ 倍のキャリアが注入される.



ベースの中性領域の 少数キャリア密度分布の式

$$n_B(x) = n_{0B} \left\{ 1 + \left[\exp\left(\frac{qV_{BE}}{kT}\right) - 1 \right] \frac{\sinh\left(\frac{W-x}{L_{eB}}\right)}{\sinh\left(\frac{W}{L_{eB}}\right)} + \left[\exp\left(\frac{qV_{BC}}{kT}\right) - 1 \right] \frac{\sinh\left(\frac{x}{L_{eB}}\right)}{\sinh\left(\frac{W}{L_{eB}}\right)} \right\}$$



ベースの中性領域の 少数キャリアによる電流

$$\begin{aligned} J_{eE} &= qD_{eB} \left. \frac{\partial n_B}{\partial x} \right|_{x=0} \\ &= -\frac{qD_{eB}n_{0B}}{L_{eB} \sinh\left(\frac{W}{L_{eB}}\right)} \left\{ \left[\exp\left(\frac{qV_{BE}}{kT}\right) - 1 \right] \cosh\left(\frac{W}{L_{eB}}\right) - \left[\exp\left(\frac{qV_{BC}}{kT}\right) - 1 \right] \right\} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} J_{eC} &= qD_{eB} \left. \frac{\partial n_B}{\partial x} \right|_{x=W} \\ &= -\frac{qD_{eB}n_{0B}}{L_{eB} \sinh\left(\frac{W}{L_{eB}}\right)} \left\{ \left[\exp\left(\frac{qV_{BE}}{kT}\right) - 1 \right] - \cosh\left(\frac{W}{L_{eB}}\right) \left[\exp\left(\frac{qV_{BC}}{kT}\right) - 1 \right] \right\} \end{aligned}$$

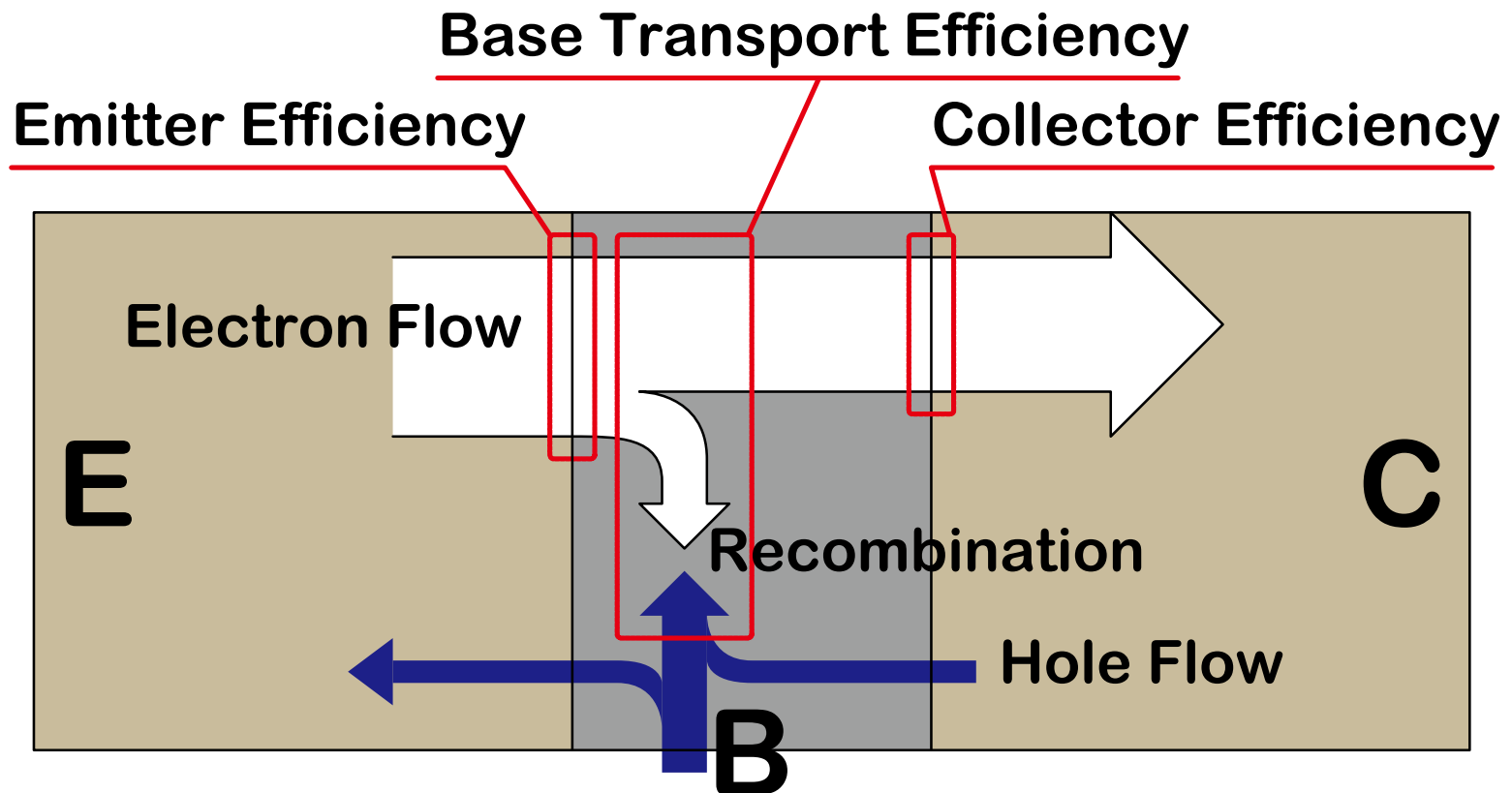
トランジスタの効率

エミッタ効率 γ_F
ベース輸送効率 α_T

エミッタ効率 γ_F ベース輸送効率 α_T

エミッタ効率： 「なるべく正孔電流は流れて欲しくない」 の程度

ベース輸送効率： 「なるべくベース内で再結合して欲しくない」 の程度



エミッタ効率

理想的なトランジスタ

ベース電流はほとんど流れない ($I_B \ll I_E \text{ \& } I_C$)

必要事項： ベースからエミッタに注入される正孔電流が小さいこと

その程度を表す指標：

$$\text{エミッタ効率 } \gamma_F = \frac{\text{エミッタからベースに注入される電子電流}}{\text{エミッタからベースに注入される全電流}}$$

エミッタ効率が1に近い： 全電流＝電子電流（正孔電流ほとんど無し）

その程度を表す式：

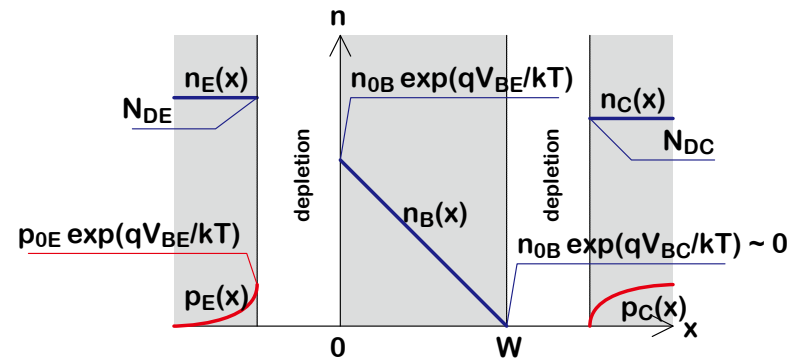
$$\gamma_F = \frac{I_{eE}}{I_{eE} + I_{hE}} \bigg|_{V_{BC}=0} = \frac{1}{1 + \frac{I_{hE}}{I_{eE}}} \bigg|_{V_{BC}=0}$$

エミッタ効率を表す式

$$J_{eE} = -\frac{qD_{eB}n_{p0B}}{L_{eB} \sinh\left(\frac{W_B}{L_{eB}}\right)} \left\{ \exp\left(\frac{qV_{BE}}{kT}\right) - 1 \right\} \cosh\left(\frac{W_B}{L_{eB}}\right) - \left[\exp\left(\frac{qV_{BC}}{kT}\right) - 1 \right]$$

$$J_{hE} = -\frac{qD_{hE}p_{0E}}{L_{hE}} \left[\exp\left(\frac{qV_{BE}}{kT}\right) - 1 \right]$$

$$\gamma_F = \frac{1}{1 + \frac{D_{hE}p_{0E}L_{eB}}{D_{eB}n_{0B}L_{hE}} \tanh\left(\frac{W}{L_{eB}}\right)}$$



一般的なトランジスタの場合、 $W \ll L_{eB}$ となっているので、 $\tanh(W/L_{eB}) \doteq W/L_{eB}$ と近似できる。

$$\gamma_F \approx \frac{1}{1 + \frac{D_{hE}p_{0E}L_{eB}W}{D_{eB}n_{0B}L_{hE}L_{eB}}} = \frac{1}{1 + \frac{\mu_{hE}p_{0E}W}{\mu_{eB}n_{0B}L_{hE}}}$$

エミッタ効率を高めるには？

$$\gamma_F = \frac{1}{1 + \frac{\mu_{hE} p_{0E} W}{\mu_{eB} n_{0B} L_{hE}}}$$

$$\frac{\mu_{hE} p_{0E} W}{\mu_{eB} n_{0B} L_{hE}}$$

の値をなるべく小さくしたい

$$\frac{\mu_{hE} \boxed{p_{0E}} W}{\mu_{eB} \boxed{n_{0B}} L_{hE}}$$

$$\boxed{p_{0E}} = \frac{n_i^2}{n_{0E}} \approx \frac{n_i^2}{\boxed{N_{DE}}}$$

$$\boxed{n_{0B}} = \frac{n_i^2}{p_{0B}} = \frac{n_i^2}{\boxed{N_{AB}}}$$

N_{DE} を大きく, N_{AB} を小さくすればよい

ベース不純物は少なく (アクセプタを少なく)
エミッタ不純物は多く (ドナーを多く)

n_i 真性キャリア密度

N_{DE} エミッタのドナー密度

N_{AB} ベースのアクセプタ密度

ベース輸送効率

理想的なトランジスタ

ベースに注入された少数キャリアが100%コレクタに到達

必要事項： ベースでの再結合が少ないこと

その程度を表す指標：

$$\text{ベース輸送効率 } \alpha_T = \frac{\text{コレクタ側への到達電子電流}}{\text{エミッタ側からの注入電子電流}}$$

ベース輸送効率が1に近い, ということの意味

エミッタからの注入電子→ほぼ全てコレクタに到達 (再結合ほとんど無し)

その程度を表す式：

$$\alpha_T = \left. \frac{I_{eC}}{I_{eE}} \right|_{V_{BC}=0}$$

ベース輸送効率を表す式

$$\alpha_T = \frac{J_{eC}}{J_{eE}} \bigg|_{V_{BC}=0} = \frac{1}{\cosh\left(\frac{W}{L_{eB}}\right)}$$

一般的なトランジスタの場合,
 $W \ll L_{eB}$ となっているので,
 $\cosh(W/L_{eB}) \doteq 1 + (W/L_{eB})^2$
と近似できる.

$$\frac{1}{\cosh(W/L_{eB})} \approx \left(1 + \frac{(W/L_{eB})^2}{2}\right)^{-1} \approx 1 - \frac{(W/L_{eB})^2}{2}$$

$$\cosh(x) = \frac{e^x + e^{-x}}{2} = 1 + \frac{x^2}{2!} + \frac{x^4}{4!} + \dots$$

$$\alpha_T \approx 1 - \frac{(W/L_{eB})^2}{2}$$

$V_{BC}=0$ のとき

$$J_{eE} = -\frac{qD_{eB}n_{0B}}{L_{eB} \tanh\left(\frac{W}{L_{eB}}\right)} \exp\left(\frac{qV_{BE}}{kT}\right)$$

$$J_{eC} = -\frac{qD_{eB}n_{0B}}{L_{eB} \sinh\left(\frac{W}{L_{eB}}\right)} \exp\left(\frac{qV_{BE}}{kT}\right)$$

ベース輸送効率を高めるには？

$$\alpha_T \approx 1 - \frac{(W / L_{eB})^2}{2}$$

$\frac{W}{L_{eB}}$ の値をなるべく小さくしたい

Wを小さく，Leを大きく



ベース厚みはなるべく薄く
ベース中の電子の拡散長がなるべく長くなるように

まとめ

エミッタ効率に関する指針

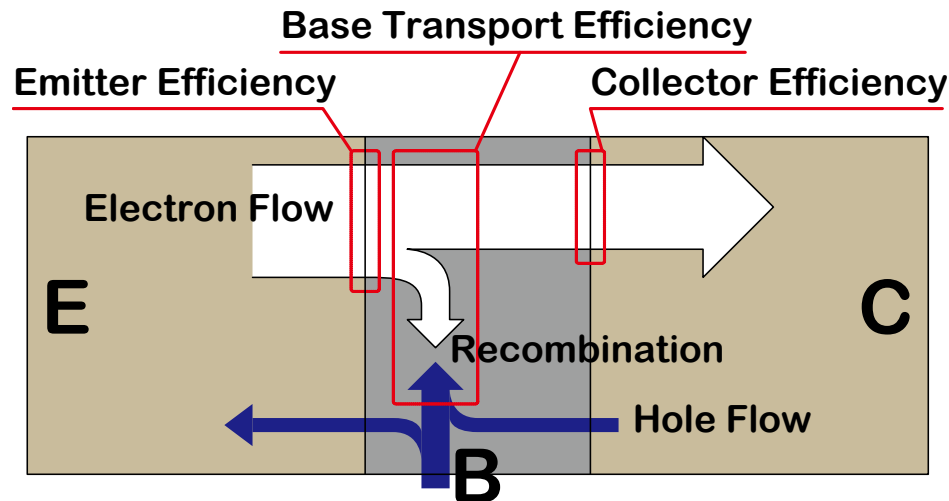
ベース不純物は少なく（アクセプタを少なく）
エミッタ不純物は多く（ドナーを多く）

$$\gamma_F = \frac{1}{1 + \frac{\mu_{hE} p_{0E} W}{\mu_{eB} n_{0B} L_{hE}}}$$

ベース輸送効率に関する指針

ベース厚みはなるべく薄く
ベース中の電子の拡散長は長く

$$\alpha_T \approx 1 - \frac{(W / L_{eB})^2}{2}$$



トランジスタの 応答速度

ベース走行時間
少数キャリアの蓄積

ベース走行時間

$$\tau_t = \frac{W^2}{2D_{eB}}$$

$$f_t = \frac{1}{2\pi\tau_t} = \frac{D_{eB}}{W^2}$$

より高周波領域まで増幅できるようにするには

ベース領域を薄くする

$$J_{eB} = qD_{eB} \frac{\partial n_B}{\partial x} = -\frac{qD_{eB}n_B}{W}$$

$$n_B = n_{0B} \left(1 - \frac{x}{W}\right)$$

ベース電流を平均電子密度 $\langle n \rangle$ と平均速度 $\langle v \rangle$ で表すと

$$J_{eB} = q \langle n_B \rangle \langle v_{eB} \rangle = q \frac{n_{0B}}{2} \langle v_{eB} \rangle$$

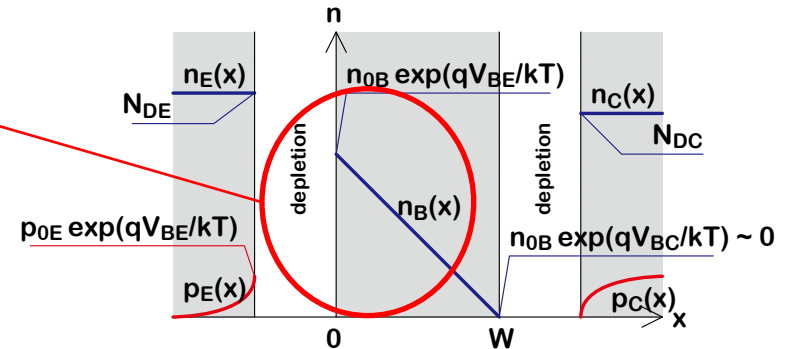
$$\langle n_B \rangle = \frac{n_{0B}}{2}$$

平均速度 $\langle v \rangle$ は,

この速度で W を通過する時間は,

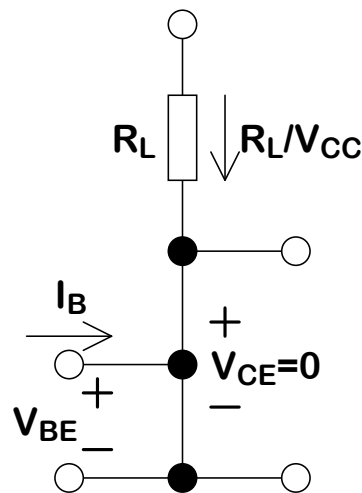
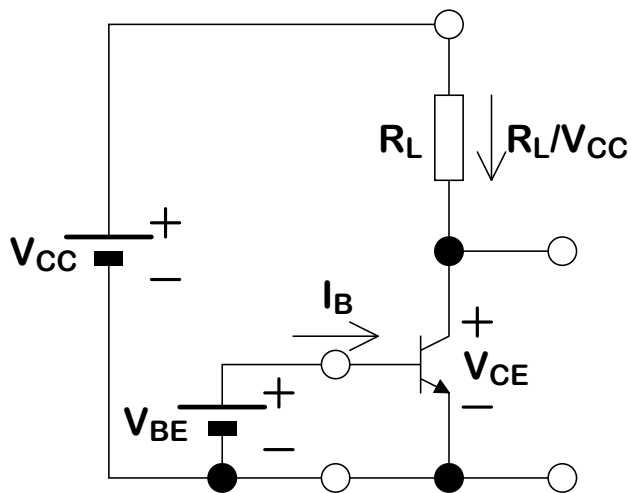
$$\langle v_{eB} \rangle = \frac{2D_{eB}}{W}$$

$$\tau_t = \frac{W}{\langle v_{eB} \rangle} = \frac{W^2}{2D_{eB}}$$

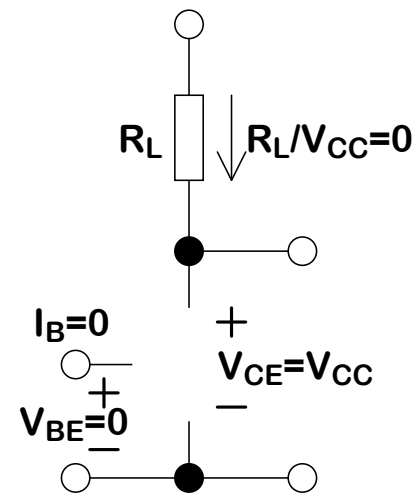


トランジスタのスイッチング動作

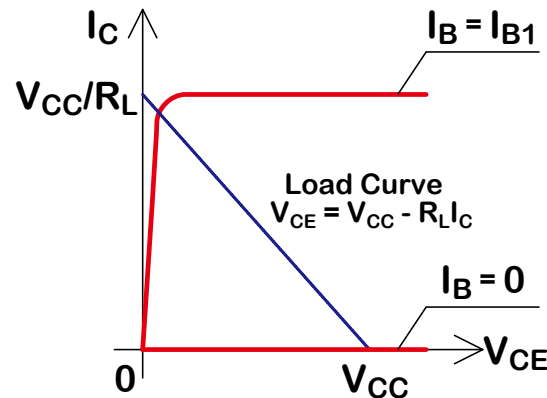
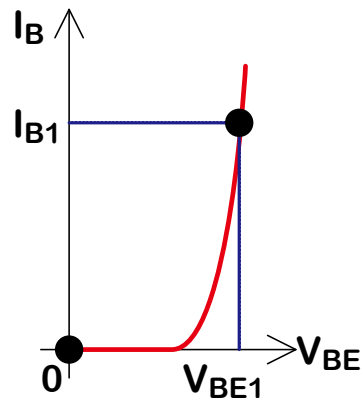
I_B が十分に大きいと, $V_{CE} \sim 0, I_C \sim V_{CC}/R_L \rightarrow \text{ON}$
 $I_B = 0$ のとき, $V_{CE} \sim V_{CC}, I_C \sim 0 \rightarrow \text{OFF}$



ON



OFF



トランジスタのスイッチングの遅れ

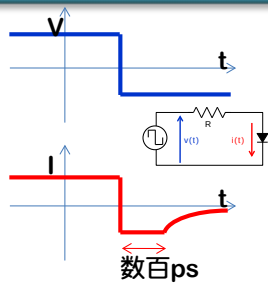
ダイオードの時と同様

ベースに注入されていた少数キャリアが亡くなるまでに、
時間が掛かる



入力電圧が変わっても、すぐに出力電圧が変わらない。

少数キャリアの蓄積効果



p型に注入された少数キャリア（電子）が消滅し、
静特性のときの密度になるまでには多少時間が必要

- (a) 順バイアス中
- (b) 逆バイアス印加直後
- (c) 境界での少数キャリア密度が熱平衡値になったとき
- (d) 境界での少数キャリア密度の減少に従って、(c)から
(d)へと空乏層に印加されている電圧が逆方向になり、
印加された電圧に近づくために、電流が減少する。

